中野駅新北口駅前エリアのまちづくりに関する意見交換会

中野区　まちづくり推進部　中野駅周辺まちづくり課

1．見直しに向けた今後の取組について

2．再整備事業計画について

3．意見交換について

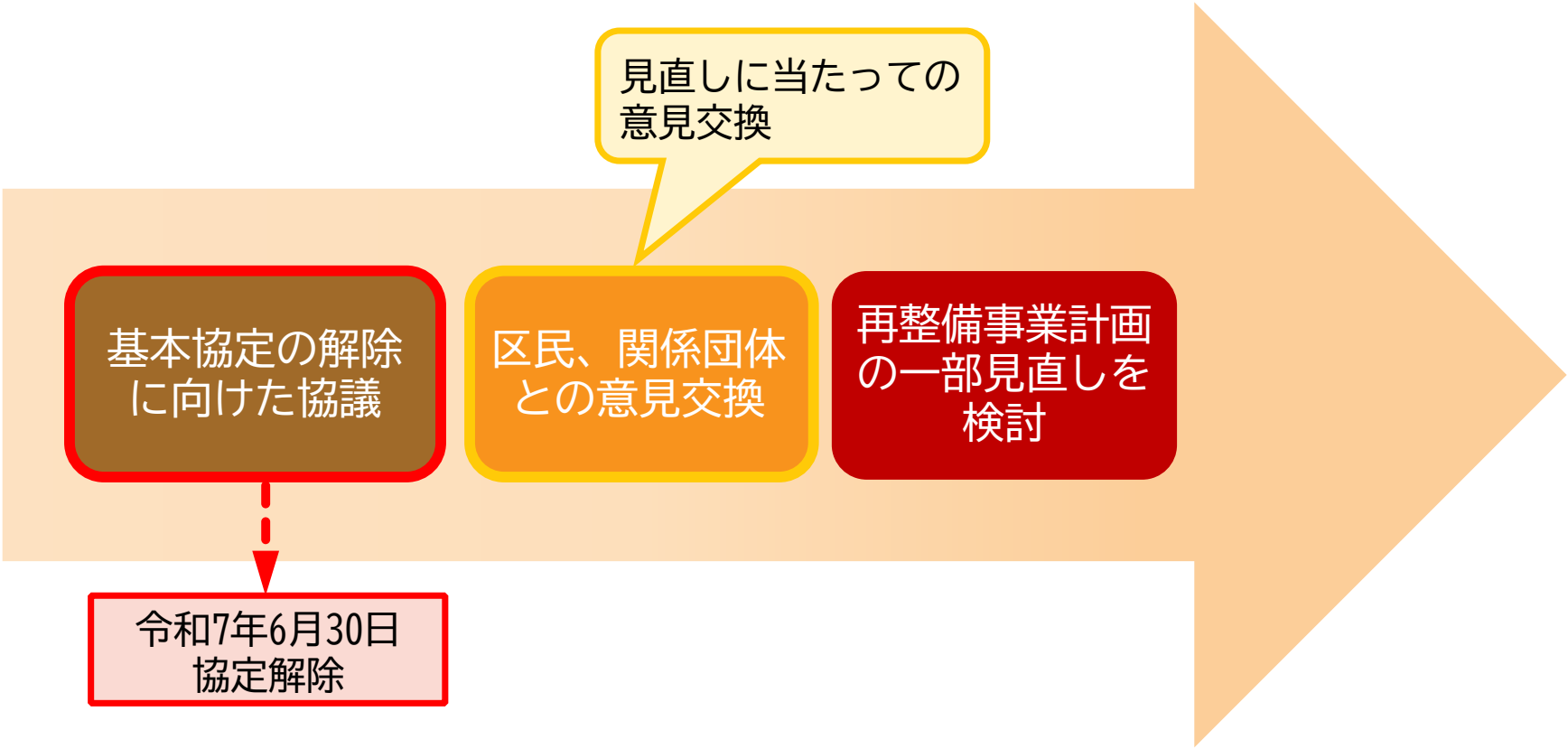
4．意見交換会・ワークショップの進め方

5．今後の予定

１．見直しに向けた今後の取組について

▼見直しに向けた今後の取組について

・中野駅新北口駅前エリア拠点施設施設整備事業については、令和7年6月30日付で事業推進に関する基本協定書の合意解除に至ったため、事業の見直しに向けた検討を進めていくこととなりました。
・今後は区民の皆様と意見交換を実施し、再整備事業計画の見直しを検討していきます。



2．再整備事業計画について

▼中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画（令和２年1月策定）について

➥中野駅新北口駅前エリア内の拠点施設整備にあたり、区として求める都市機能や事業化に向けた基本方針を示したもの

コンセプト

中野サンプラザのDNAを継承した、新たなシンボル拠点をつくる。

中野駅周辺の回遊性を高め、にぎわいと交流に満ちたまちをつくる。

未来に続く中野の活力・文化・暮らしをつくる。

拠点施設整備・誘導の基本方針

3-1.中野のシンボルとなる新たな文化・芸術等発信拠点の形成
- 3-1-1. 文化・芸術等発信拠点の整備・誘導方針
- 3-1-2. 多目的ホールの整備・誘導方針
- 3-1-3. エリアマネジメントの誘導方針

3-2.公共公益性の向上につながる空間構成
- 3-2-1. 歩行者動線の整備・誘導方針
- 3-2-2. 広場空間の整備・誘導方針
- 3-2-3. 立体道路の整備・誘導方針

3-3.持続可能性を高める用途構成や機能
- 3-3-1. 整備・誘導を図る主な施設・機能
- 3-3-2. 街並み形成の方針
- 3-3-3. 施設計画の基本的事項

※「中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画」（令和　2年1月策定）より

中野駅新北口駅前エリアの拠点施設整備では、中野サンプラザのＤＮＡを継承し、１００年先においても中野区の顔として区民に愛され親しまれるような施設を実現するため、「中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画」に定める３つの基本方針に基づく整備が必要であると考えています。

3．意見交換について

▼意見交換の主旨について

本意見交換では３つの基本方針に基づき、中野駅新北口駅前エリアに必要な施設や機能について意見を伺います。

拠点施設整備･誘導の基本方針

- 中野のシンボルとなる新たな文化・芸術等の発信拠点の形成
- 公共公益性の向上につながる空間構成
- 持続可能性を高める用途構成や機能

次のページから３つの基本方針に対する区の考え方、区が考える基本方針を踏まえた必要施設や機能の一例を参考事例ともに紹介します。

中野のシンボルとなる新たな文化・芸術等の発信拠点の形成

「中野のシンボルとなる新たな文化・芸術等の発信拠点の形成」は多目的ホールを中心に、文化・芸術等発信拠点の形成に寄与するその他の施設・機能を含めた施設全体により構成されるものとします。

▼中野区基本構想における視点

中野区は、多世代にわたり、様々な人が暮らし、訪れ、活躍するダイバーシティ（多様性）にあふれたまちです。
伝統的な文化・芸術活動が根付くとともに、お笑い、演劇、ライブ・コンサートなどのエンターテインメントにあふれた活動が活発に行われ、多くの人々が夢や希望を抱くとともに、漫画やアニメなどのサブカルチャーの宝庫として、国内外にその魅力と独自の文化を発信し続けています。

※中野区基本構想（令和3年3月23日改定）より

▼中野区の文化・芸術活動の特徴

- 近年、中野駅周辺の開発などに伴い、中野区にアニメーション産業等で世界的にも有力な企業が集積しており、国内　最大級のアニメ生産地となっています。（クリエイターも多く在住）
- 中野ブロードウェイとその周辺は、インバウンドを含めた多くの来街者が訪れるサブカルチャー（マンガ・アニメ、時計、カメラ）の発信地・聖地となっています。
- 中野四季の都市エリアを中心に、多様で多彩な文化的イベントや企画が年間を通じて実施されています。

中野チルナイトピクニック（2024）

大道芸博（2024）

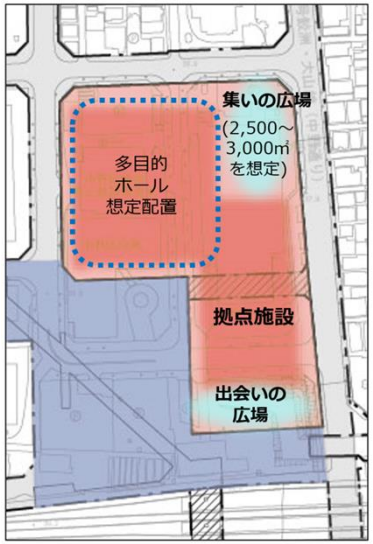
中野のシンボルとなる新たな文化・芸術等の発信拠点の形成（多目的ホール・広場）

再整備事業計画の基本方針を踏まえた施設や機能の考え方

▼多目的ホール

・最大収容人数７千人程度（着席の場合５千人程度を想定）を上限
・中野サンプラザのＤＮＡのひとつであるポピュラー音楽の公演を主用途とした整備・誘導
・民間事業者による整備・所有・運営とした、民間の創意工夫による集客力・発信力の向上

▼多目的ホール・広場配置・利用イメージ



多目的ホールの利用イメージ

広場の利用イメージ

▼多目的ホール　想定規模

大ホール
最大収容
約7000人

中ホール
最大収容
約1000～3000人

小ホール
最大収容
約200～800人

多目的ホールのイベント想定イメージ

大ホール

最大収容　約7000人

・音楽コンサート　・eスポーツ　・アーバンスポーツ
・成人式　etc.

音楽コンサート　約7000人

eスポーツ

中ホール

最大収容　約1000～3000人

・音楽コンサート　・展示会　・演劇　etc.

音楽コンサート　約3000人

展示会

中野で開催している文化的イベントや企画での活用

中野チャンプルーフェスタ

中野駅前大盆踊り大会

なかの東北絆まつり

多目的ホール・広場のイベント想定イメージ

小ホール

最大収容　約200～800人

・ライブ　・地域イベント　・ギャラリー　etc.

ライブ　約600人

ギャラリー

広場

想定面積　約2500㎡～3000㎡

・日々の集いの場　・イベント　・災害時の一時滞留　etc.

日々の集いの場

イベント

中野で開催している文化・芸術イベントでの活用

ハワイアンイベント

Art×Nakano-アートに出会う区役所

中野ランニングフェスタ

やきいもフェス

中野のシンボルとなる新たな文化・芸術等の発信拠点の形成（展望施設）

再整備事業計画の基本方針を踏まえた施設や機能の考え方

▼展望施設

- 区民も来街者も集客できる用途連携（LIVEレストラン、展望テラス、展望レストラン、展望パーク）
- 昼夜の使い分けによる集客力、多世代に利用される施設

▼参考事例：池袋サンシャイン てんぼうパーク（昼・夜）

昼＝子育てファミリー中心

夜＝カップルなど 大人中心

▼参考事例：展望レストラン、LIVEレストラン、展望テラス

【参考】「中野のシンボルとなる新たな文化・芸術等の発信拠点の形成」検討の視点（中野駅周辺の現在地）

■アニメ・コンテンツ事業者の集積とサブカルチャーの発信地

・近年、中野駅周辺の開発などに伴い、中野区にアニメーション産業等で世界的にも有力な企業が集積しており、**国内最大級のアニメ生産地**となっている。クリエイターも多く在住。
・中野ブロードウェイとその周辺は、インバウンドを含めた多くの来街者が訪れるサブカルチャー（マンガ・アニメ、時計、カメラ）の発信地・聖地となっている。

■多様で多彩な文化的イベントや企画が年間を通じて実施

・中野通り桜ライトアップ／中野通り桜まつり　・ツナヨシドッグフェスティバル
・ハワイアンイベント　・中野チャンプルーフェスタ　・中野駅前大盆踊り大会
・中野チルナイトピクニック　・なかのボッチャフェスタ　・なかの東北絆まつり
・羊フェスタ　・やきいもフェス　・中野×杉並×豊島アニメ・マンガフェス
・中野ランニングフェスタ etc.

■身近に触れられる遊び心溢れる文化・芸術が展開

・お笑いライブ（なかの芸能小劇場／Studio twl／中野シアターかざあな etc.）
・ショートフィルムフェスティバル「ナカンヌ」
・中野ミューラルプロジェクト（壁画によるまちなかアートの展開）
・アール・ブリュット「ＮＡＫＡＮＯ街中まるごと美術館！」（商店街など）
・中野ZERO・中野区役所１階等での更なる文化芸術情報の発信、イベント等の実施
・アニメロード・アニメマンホールの整備 etc.

■中野駅周辺激動の歴史

・江戸最大級の犬小屋（綱吉）、鷹狩りと桃の植樹（吉宗）、囲町軍事施設、中央線最大の闇市（戦後）etc.

公共公益性の向上につながる空間構成

「公共公益性の向上につながる空間構成」は、中野駅、新区役所、中野四季の都市（まち）、中野五丁目など周辺地区をつなぐ安全で円滑なバリアフリーの歩行者ネットワークを形成し、周辺地区との関係性を踏まえた広場空間整備を誘導するものです。

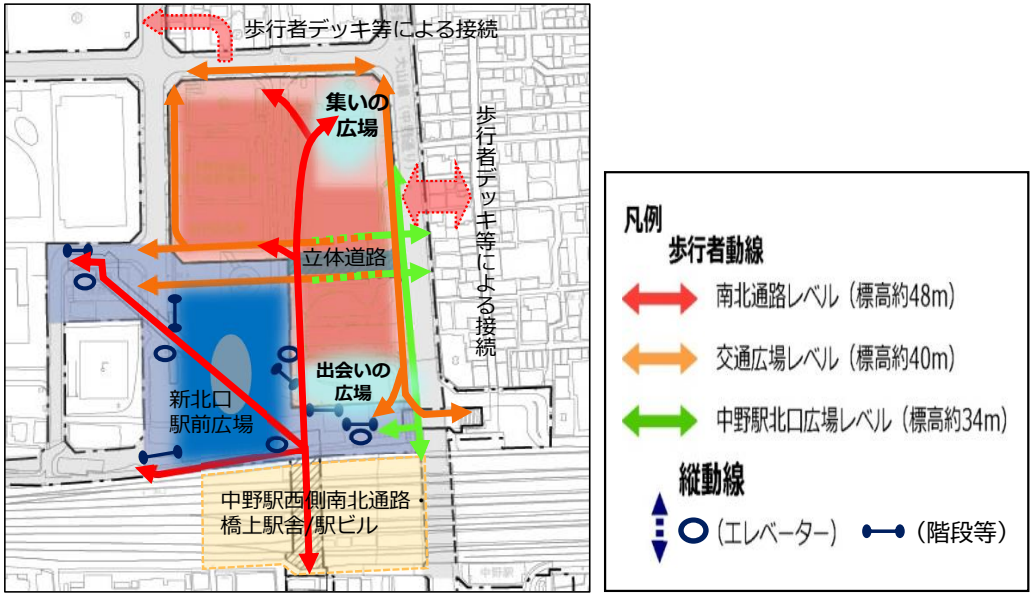
▼中野区基本構想における視点

（４）安全・安心で住み続けたくなる持続可能なまち

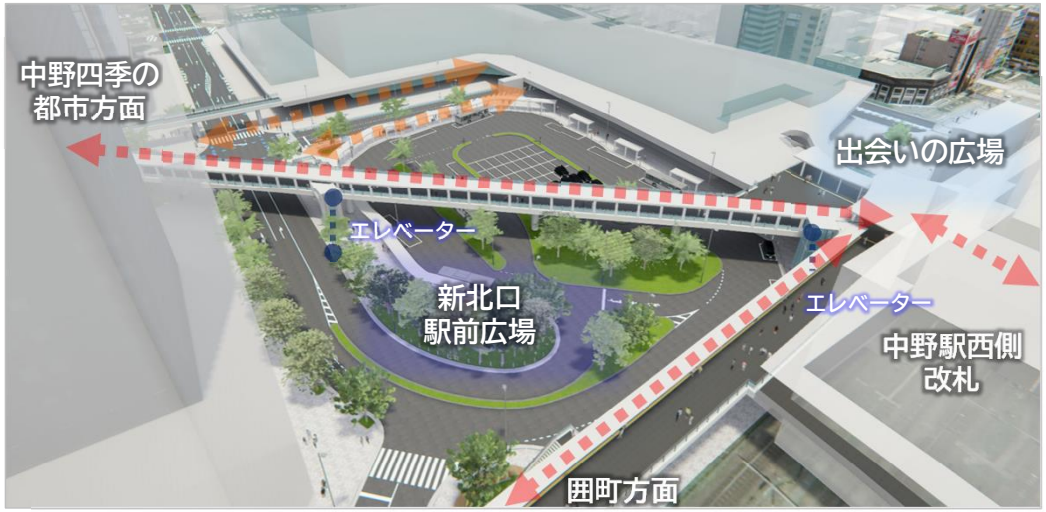
地区の特性に応じたまちづくりや連続立体交差事業の進展などにより、駅周辺を核としたまちの安全性・快適性・利便性が向上し、時代の変化に対応したまちづくりが進んでいます。

※中野区基本構想（令和3年3月23日改定）より

▼歩行者ネットワーク・広場計画イメージ



▼歩行者ネットワーク・新北口広場周辺のバリアフリー動線イメージ



・周辺地区を繋ぐ安全で円滑な歩行者ネットワークの形成
・エレベーターやエスカレーター設置によるバリアフリー動線の整備

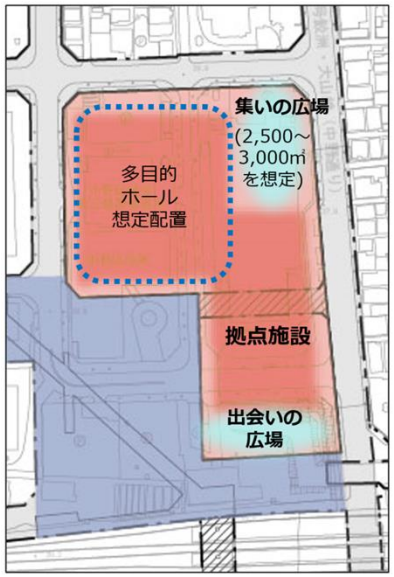
公共公益性の向上につながる空間構成（広場・にぎわい）

再整備事業計画の基本方針を踏まえた施設や機能の考え方

▼広場空間

- 街区北側にはにぎわいと交流を創出する「集いの広場を配置」を設け、多目的ホール来場者の滞留空間やイベント空間、災害時の一時滞留空間としての利用を想定
- 駅前広場に面する街区内南側にまちのエントランスとして機能する「出会いの広場」を設け、エントランスにふさわしい、空間的な広がりや周辺への見通しに配慮
- 広場に接続する歩行者デッキや大階段等による溜まり空間と賑わいの創出、地域イベント等の拠点づくり

▼広場配置の考え方



▼参考事例：狛江駅北口駅前広場

駅前広場や道路を活用したにぎわい空間

▼参考イメージ：大階段等による溜まり空間と賑わい

アーティスト活動や地域イベントイメージ

公共公益性の向上につながる空間構成（歩きたくなるまち）

再整備事業計画の基本方針を踏まえた施設や機能の考え方

▼歩行者ネットワーク・歩きたくなるまちなかづくり

- 周辺地区をつなぐ安全で円滑なユニバーサルデザインの歩行者ネットワークを形成
- 居心地が良く、歩きたくなるまちなかづくりの視点に立った都市の多様性に配慮されたオープンな空間を創出
- 地区内の歩行者動線は、商業施設などと一体的にゆとりを持って配置し、新たなにぎわい軸を形成

▼歩きたくなるまちのイメージ

公道と敷地の一体空間イメージ

▼参考事例：神戸市（サンキタ通り）

食事スペース（テラス席）の設置、フラットな境界による歩きやすい空間

持続可能性を高める用途構成や機能

「持続可能性を高める用途構成や機能」とは、中野区の持続可能性を高め、地域活力をけん引していく拠点施設を目指し、昼間人口（通勤・通学者等）、夜間人口（居住者等）、交流人口（来街者等）がバランスよく配置される用途構成を誘導するものです。

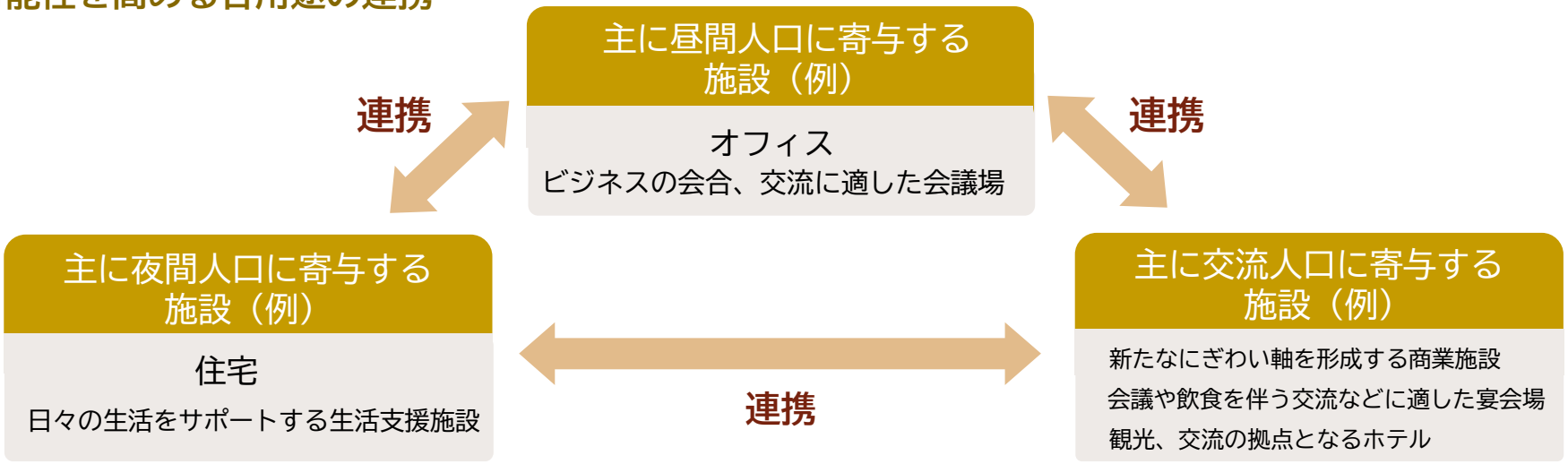
▼中野区基本構想における視点

（１）人と人とがつながり、新たな活力が生み出されるまち

- 区内産業の持続的な発展や新たな企業の参入などにより、区民の生活をより豊かにする商品・サービスが生まれ、地域経済が活性化しています。商店街は、多彩な社会的役割を果たしつつ、より魅力あるものとなっています。
- 都市機能が集積し、回遊性が向上した中野駅周辺は、多様な経済・文化活動が行われ、区全体を持続可能な活力あるまちへとけん引するとともに、東京23区の西部における新たな活力とにぎわいのシンボルとして、世界に発信されています。

※中野区基本構想（令和3年3月23日改定）より

▼持続可能性を高める各用途の連携



持続可能性を高める用途構成や機能（子育て関連施設）

再整備事業計画の基本方針を踏まえた施設の考え方

▼子育て支援施設
- 子どもが安心して過ごせる居場所の提供

▼子どもの屋内遊び場
- 子どもと子をもつ親が憩い、楽しめる空間の創出
- 屋内遊び場と屋外遊び場を組み合わせ、多様な実体験を重ねられる豊富なあそび場の提供

▼子育て支援施設イメージ

アフタースクール等による
居場所提供のイメージ

▼参考事例：プレイヴィル安満遺跡公園

屋内遊び場と屋外遊び場の連携による
多様なあそび場の提供

雨の日も楽しめる屋内あそび場
多彩な動きの経験

持続可能性を高める用途構成や機能（バンケット等）

再整備事業計画の基本方針を踏まえた施設の考え方

▼バンケット・コンベンションホール

- 中野サンプラザの区民交流機能を継承した誰もが気軽に利用できる交流・発表の場を提供
- 幅広い利用ニーズに対応した配置、広場と連携した屋内外の活用

▼利用イメージ中野サンプラザコスモルーム

▼利用イメージ（中野区新年賀詞交換会）

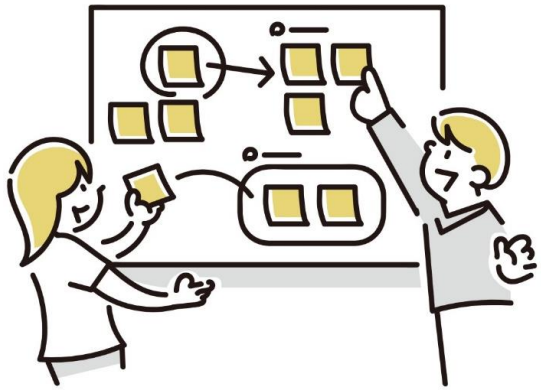
▼参考事例（IKE・SUNPARK）

3．意見交換について

▼意見交換について

これまでご紹介した内容を参考に、中野駅新北口駅前エリアにどのような施設や機能が必要かなど、具体的なアイディアや意見をお聞かせください。

（例）
- 未来を担う子どもたちのために、どんな施設や機能が必要か
- 施設の規模はどのくらいが望ましいか
- 区民にとってどんな施設や機能があると望ましいか
- どんなことを体験してみたいか　など



４．意見交換会・ワークショップの進め方

意見交換会の進め方

・説明会方式で個別に着席（席指定）

・意見交換の主旨、内容の説明

・意見のある方は挙手
（20分/1つの基本方針　×３回）

・挙手した方から1人1分程度で質疑応答

ワークショップの進め方

・４～５人1グループにわかれて着席

・意見交換の主旨、内容の説明

・3つ基本方針について、20分毎(3回)に
テーマを変えて意見交換
（付箋に意見を書いて模造紙に貼付け）

・テーマごとに各グループの代表者が発表

５．今後の予定

令和７年１０月頃

意見交換会・ワークショップ
今回と同様の方式

※テーマについては未定

日程は改めてお知らせします

インターネットを活用した
意見募集

※テーマについては未定